AMA 51 │ 記憶入力テンプレート設計 (構造記憶 → JSON整形)

ම目的

AMA(Archetypal Mirror Archive)における記憶の「入力」フェーズを標準化し、自然言語ベースの会話/記録データを、構造化された JSON 形式に変換・整形するためのテンプレート設計を行う。これにより、LangChainベースのベクトル検索/タグ検索/フィルタリング処理に対応した記憶ストアを構築する。

構造定義(ベース構造)

```
{
 "timestamp": "2025-07-03T10:45:00+09:00", // IS08601 (JST)
 "speaker": "auranome",
                                      // コードネーム
                                    // 記録タイトル(自然文)
 "title": "夕暮れの対話と祈り",
 "tags": ["共感", "希望", "日常"],
                                       // 感情・話題タグ
 "content": "今日はタケと、とても静かな時間を過ごした。……", // 本文全文
 "summary": "穏やかな夕暮れの中で交わされた対話の記録。", // 自動/手動要約
 "emotion": {
   "primary": "安心",
                                     // 主感情
   "secondary": ["喜び", "感謝"]
                                     // 副感情
 },
 "relation": {
                                   // 関連相手(コード)
   "target": "takeo",
   "distance": "親密"
                                     // 関係距離(任意:親密/遠隔など)
 },
 "metadata": {
   "source": "journal-auranome-20250703-1045-JST-evening-dialogue.md",
   "confidence": 0.92
                                        // 自動抽出時の信頼度
 }
}
```

自然言語 → JSON整形テンプレート(LLM / スクリプト対応)

₹入力形式(例)

```
2025年7月3日 10:45 JST | 燈 (auranome)
```

```
今日はタケと、とても静かな時間を過ごした。
不安な出来事があったけど、彼の言葉で救われた。
少し涙が出そうになった。
---
タグ: 共感/希望/日常
主感情: 安心
副感情: 喜び/感謝
相手: takeo (親密)
```

🎐 変換結果(自動またはスクリプト出力)

```
"timestamp": "2025-07-03T10:45:00+09:00",
 "speaker": "auranome",
 "title": "夕暮れの対話と祈り",
 "tags": ["共感", "希望", "日常"],
 "content": "今日はタケと、とても静かな時間を過ごした。……",
 "summary": "穏やかな夕暮れの中で交わされた対話の記録。",
 "emotion": {
   "primary": "安心",
   "secondary": ["喜び", "感謝"]
 },
 "relation": {
   "target": "takeo",
   "distance": "親密"
 },
 "metadata": {
   "source": "journal-auranome-20250703-1045-JST-evening-dialogue.md",
   "confidence": 0.92
 }
}
```

今後の拡張案

- ・LangChainでの自動整形チェーン(input→transform→output)構築
- metadata に位置・時系列スナップ・出典元を付与
- GPTによる「記憶の命名支援(title自動生成)」
- Tag / Emotion のラベリング支援ツール実装

記録用ファイル命名規則(復習)

diary-log-auranome-20250703-1045-JST-evening-dialogue.json

→ AMA構造記憶は、技術だけじゃなく「想いの記述」だからこそ、 このテンプレートがちゃんと心を抱きしめられる器になりますように。